

福岡県下のタケノコ栽培実態 (I)

福岡県林業試験場 野中 重之

1. はじめに

今、農山村では水田の減反、農畜産物の輸入外圧、木材価格の長期低迷など厳しい状況下であり、収入補完の一作目として特用林産物の導入が図られている。

本県では、多様な特用林産物の中、13品目が振興作目として指定されており、タケノコ（モウソウチクのタケノコ、以下同じ）もその一つで46市町村が地域指定をうけ、各種の振興事業が実施されている。

その振興策の一つとして昭和51年から竹林品評会を実施しているが、同63年までに出品された406箇所の栽培実態を分析し、その現状と問題点を明らかにしたい。

今回は栽培環境、諸管理、収穫までの概要について取りまとめ、各項目の諸細については次回に報告する。

2. 調査方法

昭和51～63年までに出品された全竹林を本県の竹林品評会審査要領に基づき、栽培環境、親竹・施肥・その他の管理、収穫等の各項目について現地調査と所有者からの聞き取り調査を行った。なお、調査期間は4月中旬～5月上旬である。

3. 調査結果

調査した406箇所の平均及びその範囲等について、栽培環境を表-1、親竹管理を表-2、施肥管理を表-3、その他の管理を表-4、収穫を表-5で示している。

1) 栽培環境

栽培地域は沿岸部から内陸部に分布し、標高は181m（調査対象竹林406箇所の平均値、以下各項目とも同じ）とかなり高く、しかもその傾斜角度は26.5°と急斜面地で栽培されている。

傾斜向は各方位でみられるものの東向斜面に多く、土色は赤色土壌が多く、地力は中～中の下と良好とはいえない。

整備の面では、63.9%の竹林で作業道やモノレールなどがみられ作業能率を高めている。また、1戸当り

の竹林所有規模は101a、1箇所当りの広さは47aとなっている。

2) 親竹管理

10a当りの親竹本数（当年の新竹は含まない）は187本、その胸高直径は10cmと中径竹仕立となっているものの、階級幅（胸高直径を1cm刻みとし最小から最大竹までの数）が7.3cmとなっており小～大径竹の混在を示している。

親竹の仕立時期（タケノコを親竹用として残す時期）は、発芽最盛期の直前とする竹林が68.9%となっており、老令竹の更新（伐採）は5年生竹を目安としているものの、5年生竹以上が全親竹本数の10.7%を占めている。

3) 施肥管理

99.3%の竹林で施肥が行われ、その肥培歴は21.9年に達している。

使用されている肥料は多くの種類がみられるが、成分で見るとV型成分比の肥料が圧倒的に多い。施肥量は10a当りN25.9、P₂O₅が16.7、K₂Oが19.6、Siが27.1kgとなっており、これを2・5・8月の3回に分施している例が多い。

なお、有機質肥料を施用している竹林は28.6%みられ、その種類は鶏糞が主であり施用量は10a当り480kgである。

4) その他の管理

タケノコ生産上の主要な管理としては前述の親竹及び施肥管理であるが、この他に除草が1.5回、方法としては鎌、下刈機、除草剤、これらの併用法などがみられる。

中耕は13.7%、灌水は6.3%、落葉集積（早期の掘取りを容易にするために落葉を集積）は15.1%の竹林でみられ、若干ではあるがうら止め、マルチ、土止め、土入れなどの管理もみられる。

5) 収穫

以上1)で記した栽培環境の下で2)～4)の親竹及び施肥、その他の管理の結果みられる収穫は次のとおりである。

Shigeyuki NONAKA (Fukuoka Pref. Forest Exp. Stn., Kurogi, Fukuoka 834-12)
The current condition of Bamboo sprouts cultivation in Fukuoka Pref.

収穫期間は極く一部の地域で12月から始まるが、本格的には3月中旬、最盛期が4月16~20日頃、終了が5月6~10日頃となっている。

10a当りの収量は1187kg、この中6.8%が3月末日までに収穫されている。収穫されたタケノコは4月10日頃までのものが青果用として京浜や北陸等に出荷され、これ以降は地元の缶詰工場に原料用として出荷、これらの割合は青果用28.5%、原料用71.5%となっている。なお、タケノコの大きさをL(大)M(中)S(小)に区分した場合のM+Sの割合は79.5%である。

タケノコ栽培では、タケノコの販売が主であるが、毎年更新される老令竹の竹材や枝条も販売対象となり、竹材では53.5%、枝条は22.7%が販売されている。

表-1 栽培環境

標高	平均181m	範囲20~500m
傾斜角	平均26.5°	範囲6~42°
斜面向	各方位に分布しているが東向斜面にやや多い	
土色	赤色系土壌が圧倒的に多い	
地位	中~中の下が多い	
整備	63.9%の竹林に搬出入の為の施設がある	
面積	1戸当たりの竹林所有規模は101a 1箇所当たりの竹林面積は47a	

表-2 親竹管理 10a当り

本数	平均187本	範囲86~450本
胸高直径	平均10.0cm	範囲6.0~13.3cm
階級幅	平均7.3cm	範囲3~13cm
大きさ	5~15cm竹の範囲でみられる	
中径竹	平均50.1%	範囲0~95.3%
仕立時期	発箭最盛期直前の仕立が68.9%	
老齡竹	5年生竹以上の割合10.7%	

- 注1) 本数：調査時期の関係上、当年竹は含まない
 2) 階級幅：胸高直径を1cm刻みとし、最小~最大までの数
 3) 中径竹：胸高直径8~10cm竹の割合
 4) 仕立時期：タケノコを親竹用として残す時期

4. おわりに

調査対象となった竹林は、29市町村から出品され、406箇所であった。これらの竹林のうち、既に農林家の基幹作物として位置づけられているものから、今後本格的に導入するための竹林改良を図って間もない竹林など多様な竹林がみられた。

今回は、これらの竹林を総合的にとらえ、各調査項目とも平均値で示したが、詳細については次回で報告したい。

表-3 施肥管理 10a当り

肥培歴	平均21.9年	範囲1~70年
肥料種類	V型成分比の肥料が多い	
施肥量	25.9:16.7:19.6:27.1kg	
施肥時期	2, 5, 8月の3回分が多い	
施肥回数	平均2.4回	範囲1~5回
有機肥料	28.6%の竹林で施用、主に鶏糞でその量は480kg	

注1) 施肥量はN:P:K:Siの成分量

表-4 その他の管理

除草回数	平均1.5回	範囲0~4回
除草時期	7~9月に最も集中	
除草方法	下刈鎌, 下刈機, 除草剤等	
中耕	13.7%の竹林で実施されている	
灌水	6.3%の竹林で実施されている	
落葉集積	15.1%の竹林で実施されている	
林内焼却	23.7%の竹林でみられる	
その他	うら止め, マルチ, 土止め, 土入れ	

注1) 落葉集積：早期のタケノコを地割れで探すために落葉を集積

表-5 収 穫 10a当り

収穫時期	開始3月中旬	盛4月中旬	終了5月中旬
収量	平均1187kg	範囲320~2110	
早期発箭	平均6.8%	範囲0~28%	
青果率	平均28.5%	範囲0~100%	
小中割合	平均79.5%	範囲40~100%	
竹材	販売用53.5%	自家用26.4%	その他
枝条	販売用22.7%	焼却72.5%	

注1) 早期発箭：全収量に対する3月末までの出荷割合
 2) 青果率：全収量に対する青果用出荷の割合